

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野

メドベージェフ政権の優先課題(3)ー経済近代化と技術的發展

1. イノベーション的發展プロジェクトの進捗状況

「イノベーション」はロシア發展の基本概念「4つのiプラス1」(制度 institution、インフラ infrastructure、イノベーション innovation、投資 investment+知力 intellect) の1つとして最重要視されている領域である。しかし掛け声とは裏腹に中身が伴っていなかったようだ。

メドベージェフ大統領は5月18日に行われた関係閣僚会議において以下のような発言を行いロシアにおけるイノベーション的發展プログラムの遅れに対する危機感を露にするとともに、この問題に対処するために大統領直轄の委員会を設置する方針を明らかにした。

【メドベージェフ大統領発言要旨】

1. イノベーション的發展の状況

- ・ 經濟の近代化とイノベーション的發展は國家の最優先課題の1つであり、これまで長い間議論を行ってきたが、実態はほとんど進んでいない。様々なプログラムを策定し計画を立てたにも関わらず、經濟の技術的發展に係る変化は全く見られない。
- ・ 我々が設立しようとした研究特化企業、研究・技術パーク、新規技術導入のための各種のセンター、「ロシア・ベンチャー・キャピタル」、技術發展經濟特區など、すべて結果が出ていない。はっきり言ってほとんどのものが紙の上にあるだけだ！
- ・ 企業におけるイノベーション的活動の状況は停滞というよりむしろ悪化している。
- ・ 非効率な勞務管理、老朽化した設備、効率の悪いビジネスプロセスやロジスティクス、これらが総て經濟にネガティブなインパクトを与えている。
- ・ 我が國の勞働生産性は米國の4分の1足らずである。
- ・ イノベーション的發展のための予算支出を受けた企業は、それを自らのイノベーション的發展のために適切に使っていない。自分で資金調達して行うべきことに使っているだけだ。

2. 採るべき措置

(1)設備の近代化

- ・ 現在のロシアの生産プロセスの90%までは老朽化した設備を近代的な設備に更新するだけで生産力を大幅に増強することができる。

(2) 研究開発

- ・ ロシアの研究開発は危機的状況にある。ロシア企業の研究開発費は予算の 6%だが、これに対し日本 75%、米国 70%、EU 諸国 25%～65%である。

(3) 中小企業対策

- ・ 中小企業に技術開発の意欲を高めるための動機付けが無い。税制優遇以外の措置をもっと考えなくてはならない。

(4) 国民のイノベーションに対する態度

- ・ 国民のイノベーションに対する態度の問題もある。どうやって国民の態度を変えるかが問題である。

3. 大統領直轄委員会設置

- ・ この問題を解決するために大統領直轄の独立委員会を設置する。
- ・ 経済の近代化、イノベーション的発展の問題はもはや抽象的な話ではない。「優先課題だ」と言うだけで何もしないでは済まされない。具体的な話をしなくてはならない。
- ・ 医療、バイオテクノロジー、省エネルギー節約など個別の領域で具体的な提案が必要だ。委員会ではそうした提案を行っていく。

2. 経済近代化と技術的発展委員会

(1) 委員会メンバー

メドベージェフ大統領は 5 月 21 日、「経済の近代化と技術発展に関する委員会」の設置に関する大統領令に署名した。委員会は大統領を委員長とし、連邦副首相や大統領府高官、関係閣僚及び主要企業のトップ等から構成されている。

【経済近代化と技術的発展委員会メンバー】

- ・ メドベージェフ D.A. : ロシア連邦大統領 (委員長)
- ・ ソビャーニン S.S. : ロシア連邦政府副首相、ロシア連邦政府機関長 (副委員長)
- ・ スルコフ V.Y. : ロシア連邦大統領府第一副長官 (副委員長)
- ・ ドヴォルコヴィッチ A.V. : ロシア連邦大統領補佐官 (担当書記)
- ・ ベロウソフ A.R. : ロシア連邦政府経済金融部門長
- ・ グレフ G.O. : ズベルバンク総裁
- ・ イワノフ S.B. : ロシア連邦政府副首相
- ・ キリエンコ S.V. : ロシアトム公社社長
- ・ コヴァリチュク M.V. : ロシア科学センター「クルチャトフ研究所」所長
- ・ ミリネール Y.B. : Digital Sky Technologies Limited 会長
- ・ ナビウリナ E.S. : ロシア連邦経済発展大臣
- ・ プロホーロフ M.D. : 「オネクシムグループ」株式会社社長
- ・ レイマン L.D. : ロシア連邦大統領参事官

・フルセンコ A.A.	：	ロシア連邦教育科学大臣
・フリステンコ V.B.	：	ロシア連邦産業貿易大臣
・チェメゾフ C.V.	：	ロステクノロジー公社社長
・チュバイス A.B.	：	ロスナノ公社社長

(2)委員会の活動方針

経済近代化と技術的発展委員会は6月18日に第1回会合を行い、メドベージェフは委員会の活動目的及び優先課題について以下のような方針を明らかにした。

a. 目的

- ・ロシアにおいて「知的経済」を創出する。そのための作業を促進する。

b. 重点領域の要件

- ・いわゆる「技術的ブレークスルー」につながるもの。
- ・具体的には①国際競争力がある、②関連産業へ乗数的効果をもたらす、③国防上のニーズを満たす、④社会的インパクトを持つ、の4つの要件を満たすものとする。
- ・「経済近代化と技術的発展委員会」において上記の要件を満たす該当プロジェクトしていく。

c. 重点領域

- ・上記要件に該当するものとして現段階で対象とする重点領域は以下のとおり。
- ① エネルギー効率の改善、省エネルギー。新世代エネルギー燃料開発を含む。
- ② 核技術
- ③ テレコミュニケーション関連の宇宙技術：GLONASS（Global Navigation Satellite System）と関連する地上インフラ
- ④ 医療技術：診療設備及び医薬品開発
- ⑤ 戦略的情報技術：スーパーコンピューター及び関連ソフトウェア

d. 作業プロセス

- ・各領域において具体的なプランを策定し、関連するワーキンググループを組成する。
- ・連邦政府、地方政府、自治共和国政府、企業専門家集団等の協力を得て定期的に開催し、進捗は大統領が管理する。

3. コメント

イノベーションがロシアの国家優先課題の1つであることは周知のとおりで、メドベージェフ大統領を始めとする政府首脳から繰り返し表明されており、09年2月のCIPPSロシアミッションの際に面談した要人からも「ロシアの発展の道はイノベーション的発展の道である」との発言があった。

しかし、実際のところプロジェクトのこれまでの捗々しくなかったことが大統領自らの口から明らかにされ、メドベージェフ大統領が直接管理する委員会を設置することにより、いわば本腰を入れて進める体制が作られた。メンバーも重点領域を主管する閣僚及び企業のトップら錚々たる

るメンバーから形成されており、大統領の不退転の決意が伝わる陣容となっている。今後の委員会の活動が注目されるところである。

なお、委員会の重点領域の最上位に上げられている「エネルギー効率の改善、省エネルギー」について、同じく CIPPS ロシアミッションの際、今回の委員会メンバーとなっているナビウリナ経済発展大臣が次のように、最も重視する問題であると語っていた。

「私としては今後経済の発展のために必要なのは省エネルギー政策であると考えている。省エネルギー政策を推進することによってイノベーション的な経済発展をさらに刺激することができる。現在ロシア政府は世界経済危機対策の議論を行っているが、**最も重視しているのはエネルギー利用効率の改善と省エネルギーである**。私はこの分野において日露で共同プロジェクトを行うことは、日露経済協力の観点からも重要な協力の対象になると考えている。」

今回の委員の発足により、ナビウリナ大臣の言葉のとおり「エネルギー効率の改善、省エネルギー」が具体的に促進されるものと思われ、進捗を注視したい。

以上